包括的な学校改善の視点：学校マネジメント

「自走する教職員集団」を実現する学校モデル

中核校	浦河町立堺町小学校	指定校	浦河町立浦河小学校、浦河町立浦河第一中学校

■　構築した学校モデルの具体

○　参画意識を高める組織マネジメントの推進

・校長、教頭、主幹教諭及び教務主任による実務者会議を設置し、重点目標の達成に向けた戦略を検討する。

・分掌を３つのグループに束ねたグループ会議やグループリーダーと実務者で組織する計画委員会において、職員会議の議題を検討するなど、分掌間の連携を促し、教職員一人一人の学校マネジメントに対する当事者意識の醸成を図る。

【同僚性を生かした小グループ協議】

○　学校経営に一人一人の声を反映する小グループ協議の活用

・教務主任のリーダーシップのもと、学力調査の結果分析と課題が見られた内容の改善策を低・中・高学年の３ブロックで検討し、学年ごとの取組を明確にした上で実践に取り組む。

・働き方改革推進委員のリーダーシップのもと、ブロックごとの働き方改革検討会議を年２回開催し、教職員一人一人の意見を検討し、実現可能で効果が期待できる取組を推進する。

○　育成を目指す資質・能力の確実な定着に向けた授業改善

・研修部のリーダーシップのもと、育成を目指す資質・能力の確実な定着に向けた授業改善の取組を教科ごと、課題ごとの４グループに分かれ、グループリーダーを中心に授業研究や指導案検討を行う。

・管内小・中学校を対象とした授業動画の公開や実践発表会の開催及び大学教授などの外部講師による授業参観や講演会を実施するなど、教職員が主体的に学び、資質・能力の向上を目指す環境づくりを行う。

【共感的・協働的に学び合う堺町型授業】

■　学校モデルの構築に向けた取組の具体

〔管理職の取組〕

・実務者会議や職員会議において、グランドデザイン、学力向上ロードマップ及び学校改善プランを活用し、本校の児童の目指す姿に基づいた資質・能力の育成と検証改善サイクルによる学力向上について、全教職員の共通理解を図り、ベクトルを揃えて取組を推進することに努めた。

・道内外の公開研究会への参加や全職員による先進校視察など、意図的かつ計画的な教員研修を積極的に推奨し、教職員一人一人の向上心と実践力を高め、「自走する教職員集団」の姿を自分たちで描くことができるよう働きかけた。

〔専科教員の取組〕

・専門性を生かし、児童が理科の学習の関心を高めることができるよう、体験的な活動を積極的に行うとともに、自らの学習を調整しながら学ぶ単元を設定するなど、共感的・協働的に学び合う堺町型授業の実現に向けた質の高い授業を目指した。

【専科教員による理科の授業】

■　各指定校への学校モデルの普及方策

・地域協議会において、中核校における教職員一人一人の意識の変容に向けた取組を共有し、指定校における組織的な取組の構築について協議した。

・町教育委員会の合同研修会や実践発表会の開催、局主催研修における実践発表などを通して、町内及び管内の小・中学校に対し、授業改善の成果や「自走する教職員集団」を構築したプロセスについて説明するなど、学校モデルの実現について説明し、周知した。